今月のソリューション事例

四国電力がシービヨンドの「e*Gate」で総合業務システムにおけるシステム連携基盤を構築

住商情報システム／シービヨンド・テクノロジー・コーポレーション

住商情報システムとシービヨンド・テクノロジー・コーポレーション(以下：シービヨンド)は、四国電力の新しい「四電グループ総合業務システム」において、同システムのシステム連携基盤に、シービヨンドのEAIソリューション「e*Gate(イーゲート)」が採用され、2004年４月より稼働を開始したことを発表した。

四電グループ総合業務システムは、ERPパッケージをコアとして、グループ企業全体で経理、工事管理、資材調達、人事労務などの間接部門業務の集約化を行い、業務プロセスの効率化、経営情報の迅速な把握、迅速かつ的確な意思決定を支援することを目的としている。今回、「e*Gate」を導入したことにより、四国電力を含む四国電力グループ会社計９社で、IBMメインフレームなどの既存システム・各種業務システムと新規導入されたERPパッケージが統合された。また、同システムでの連携システム数は36、連携インタフェース数は約1,000以上に及んだが、e*GateがERPパッケージおよびIBM CICS対応のインタフェースを備えていることと、e*Gateによるシステム連携実績とノウハウの豊富な住商情報システムの設計・開発力により、システム連携の設計・開発部分をわずか3ヵ月という短期間で実現した。

今回、e*Gateが採用された主なポイントは、「開発効率」、「メインフレームとのリアルタイム連携実績」、「分散環境」、「メンテナンスの効率化」、「稼働環境に応じた柔軟なライセンス体系」など。

なお、同システムの設計・開発・テストは、四国電力グループの情報システム会社であるSTNetと、住商情報システムが行った。

住商情報システム／TEL：03-5166-1150
シービヨンド／TEL：03-5739-3890

ミネソタ州が「ILOG JRules」により州の失業保険給付システムを合理化

アイログ

ミネソタ州は、法改正に対する柔軟性の向上と失業保険給付金支払い決定に要する時間を短縮するために、アイログのビジネス・ルール管理システム（BRMS）「ILOG JRules」を採用した。BRMSは、ルール設定・変更・操作・管理、自動化を包括的に提供することにより、企業の業務プロセスを効率化し、経営におけるビジネス・プロセスの管理を実現するシステムである。

ミネソタ州におけるルール・ベースの新しいシステムは、現在（2004年４月末）、世界有数のコンサルティング会社であるBearingPoint社（以下、ベリングポイント）によって構築中である。このシステムは、ミネソタ州政府雇用・経済開発部（DEED：Minnesota Department of Employment and Economic Development）におけるビジネス・プロセスの再設計およびテクノロジーの近代化のための1600万ドル規模のイニシアチブの一部である。ベリングポイントでは、全米規模の失業保険ソリューションである、同社のUnemployment Framework for Automated Claims and Tax Services（uFACTS）をDEEDに導入する予定である。ILOG JRulesは、このuFACTSソリューションに組み込まれている。uFACTSは、失業保険プログラムの中核となる業務活動に対応している４つの基本ソフトウェア・アプリケーション・サービスを中心に構築されており、ILOG JRulesはこの中で、DEEDプロジェクトの第１フェーズにおいて、失業保険の課税負担を決める複雑なルールを管理している。プロジェクトの今後のフェーズでは、ILOG JRulesが、失業保険請求処理を行う全体ルールの管理を含むよう拡張される予定である。

アイログ／TEL：03-5211-5770
E-mail：info@iilog.co.jp

ルーセント・テクノロジー

Jiangsu Telecom社がインテリジェント光ネットワーク構築のためにルーセント・テクノロジーを採用

ルーセント・テクノロジー(以下、ルーセント)はChina Telecom社の地方関連子会社であるJiangsu Telecom社と契約し、江蘇省におけるJiangsu Telecom社の光伝送ネットワーク拡大のために光ネットワーク機器を提供することを発表した。

ルーセントは、次世代光伝送装置「LambdaUnite Multi-Service Switch（MSS)」、光伝送ネットワークの包括的な監視制御を行うアプリケーション「Navis Optical Management System（OMS)」など多くの光伝送ソリューションを提供しており、中国では江蘇省で、音声およびデータトラフィック用の次世代インテリジェント光伝送プラットフォームの構築に採用された実績がある。Jiangsu Telecomは、LambdaUnite MSSのインテリジェント制御プレーンを採用したことによって、新規ネットワークエレメントが追加される時にすばやくネットワークをアップデートすることができ、さらに各サービスに対して、柔軟なプロビジョンが可能な様々なプロテクションレベルを用いて、エンド・カスタマー向けに差別化したサービスを提供することができるようになった。

Jiangsu Telecom社のゼネラル・マネージャーであるJiuming Sun氏は今回の採用について、「多数の高速データサービスに対して増大する要求に対し、当社の既存の地方光伝送ネットワークをアップグレードする必要があります。そこで、技術面におけるリーダーシップと、費用対効果の高いソリューションとサービスの提供において実績のあるルーセントを採用しました」と語っている。

広報部／TEL：03-5561-3660
E-mail：jpmarcom@lucent.com

シスコシステムズ

日本生命保険がシスコシステムズの無線LANシステムを大規模導入

日本生命保険は、シスコシステムズ(以下、シスコ)の無線LANシステムを導入することを発表した。今回導入されるシステムは、主として約6万名に上る保険営業職員を対象にしたもので、全国約2,000個所の営業拠点に導入される予定である。

日本生命保険は2001年度に「事務改革フォーラム21」をスタートしており、業務フローの改革が進められてきた。その一環としてITシステムの見直しも行われており、ニッセイ情報テクノロジーが中心となって、従来のホストと拠点サーバを中心に構成されていた業務システムをWeb化する取組みが進められている。

これまで日本生命保険の社内では、センターに設置されたメインフレームと各拠点のサーバ／拠点サーバとPCとのデータ同期を行う「ドッキングステーション」の組み合わせによって、保険営業職員へのITサービスを提供していた。これを完全にWeb化してPCとの接続も無線LANにすることで、「業務時間活用の効率化」、「作業環境の利便性向上」、「顧客対応のスピードアップ」、「情報共有化の推進」、「システム運用管理の簡素化」といったメリットが期待されている。

日本生命保険ではWeb経由で利用可能な保険代理店向けアプリケーションを2004年１月から稼動開始しているが、2005年１月にはシスコの無線LANシステムによるネットワークシステムの本番稼働を開始し、同時に保険営業職員向けアプリケーションを提供開始する予定である。これらのソリューションは、ニッセイトータルパートナーのワークスタイルを大きく変革するものとして、高い期待が寄せられている。

シスコシステムズ／TEL：03-5549-6500
E-mail：press-jp@cisco.co